

『明日の神話』かわら版

発行：特定非営利活動法人 明日の神話保全継承機構 / 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 1-14-11 小林ビル 9F / <http://asunoshinwa.or.jp>

TARO LETTER



「パワースポット」になる!



『明日の神話』はすっかりと渋谷の空間になじんだ

3月11日に発生した東北関東大震災により、被災された皆さまに謹んでお見舞い申し上げます。被災地が一日も早く復興されると共に、皆さまの安全と健康をお祈り申し上げます。岡本太郎の巨大壁画『明日の神話』は、今回の地震による損傷はありませんでした。

NPO 法人明日の神話保全継承機構 理事長 小林幹育

招致決定からマル3年、街の一部に溶け込んだ

『明日の神話』を渋谷に設置することが正式決定したのは、2008年3月18日。決まった瞬間の大きな喜びと、『明日の神話』を守っていく責任の重さをかみしめました。あれからちょうど3年が経過しました。

渋谷マークシティの連絡通路の壁が、『明日の神話』の大きなサイズにピッタリとはまったという物理的なこともありますが、何よりも多くの関係者が一丸となって招致に向けた熱意が、渋谷に『明日の神話』を運んでくれました。招致活動に賛同し、署名をいただいたのは、渋谷・青山エリアの商店会・町会などが37団体、企業は328社にもものぼります。ご支援をいただいた多くの関係の皆さまに改めて感謝しています。

2008年11月に『明日の神話』を設置して以降、当NPO法人は、壁画に付着したほこりを払う清掃活動「すす払い」や、渋谷・青山に点在する岡本太郎のパブリックアートを訪ね歩く「TARO WALK」などを展開し、3年目の活動を進めているところです。

本年は岡本太郎(1911-1996)の生誕100年のメモリアル年ということもあり、ここにきて『明日の神話』も多方面で取り上げられて、ますます注目が高まっています。『明日の神話』は、岡本太郎ファンだけでなく、今や多くの人々を引きつけ、勇気と元気を与えてくれる「パワースポット」となり、渋谷の観光拠点の一つともなっています。一方で、通勤通学で『明日の神話』の前を通行する人々は淡々と通り過ぎていますが、『明日の神話』は、まるでずっと昔からあの空間に存在し、道行く人々を見守っているかのようでもあります。それだけ街の一部としてなじみ、自然に溶け込んだということかもしれません。

今、渋谷駅周辺地域は、「渋谷ヒカリエ」などビル建設が活発化しています。さらに東横線が副都心線と相互乗り入れした後は、現在の駅の跡地などでも開発工事が進んでいき、渋谷の街は、数年にわたって工事が継続され、ともすれば殺伐とした暗い風景が続くことが懸念されます。そんな中、『明日の神話』が、その殺風景さを和らげ、街に潤いを与えて明るくする存在となっていく——。まさに「パワースポット」になっていくことは間違いありません。



大きなポスターが設置され、さらに注目度が高まる

岡本太郎展で『明日の神話』の下絵を公開

「生誕100年 岡本太郎展」が3月8日から東京国立近代美術館で開催されています。岡本太郎の世界を全7章に分けて、絵画・彫刻・写真・デザインなど約130点の作品を紹介しています。その中で『明日の神話』の「下絵」も公開されていますが、巨大壁画『明日の神話』の下にそのことを告知するポスターを掲出しています。

『明日の神話』の「下絵」は、全部で4枚を描いたとされていますが、今回、展示されているのは、川崎市岡本太郎美術館が所蔵する横幅が11mの最終下絵です。下絵と「本モノ」は、構図やモチーフに大きな変更はありませんが、左右のカットされた部分のほか、色使い、キノコ雲、マグロを引っ張る船の位置などに若干の変化が見られ、相互を見比べるのも楽しみです。

「生誕100年 岡本太郎展」は、5月8日まで。ぜひ、お出かけいただき、「何だこれは！」と叫んでみましょう。